

子宮卵管造影検査に関する説明書

子宮卵管造影検査とは、

子宮内に細いカテーテルを挿入し、造影剤を注入しながらレントゲン撮影を行うことで、子宮の形や両側卵管の通過性を確認する検査です。

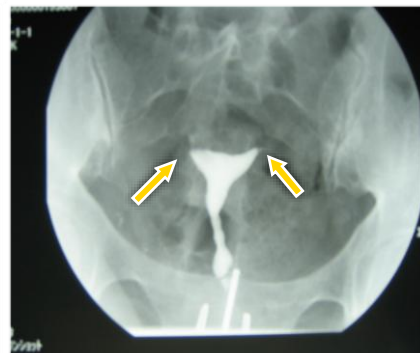
主に卵管の詰まりや狭窄、子宮内の形態異常の有無を調べる目的で行われ、不妊原因の評価として重要な検査の一つです。

1) 目的

子宮内病変の有無や、卵管因子による不妊原因の検索のため

2) 対象となる方 (適応)

- ・超音波検査などで、子宮内腔の形態異常や病変が疑われる場合
- ・不妊原因が明らかでない場合
- ・その他、担当医師が必要と判断した場合など



□両側卵管閉塞

3) 方法

前処置：子宮内に細い造影剤注入用のカテーテルを挿入します。

麻酔：通常は、麻酔の必要はありません（ご希望がある場合には、麻酔を実施することも可能です）。

検査の方法：検査台に横になっていただき、あらかじめ子宮内に入れたカテーテルから造影剤（ヨード系造影剤）を注入しながら、レントゲンを複数枚撮影し、子宮と卵管の状態を観察します。検査自体の所要時間は数分程度です。

4) 子宮卵管造影検査の実施時期

子宮卵管造影検査は、月経終了後から排卵日までの期間に行うのが最も適しています。月経周期が 28 日の場合、排卵日はおおよそ周期 14 日前後とされており、この時期に実施することで子宮内の状態を最も良好に観察することが可能です。

5) 子宮卵管造影検査のリスク

- ①出血：子宮内にカテーテルを挿入する刺激で、2～3 日出血が続く場合がありますが、多くの場合は自然に止血されます。
- ②造影剤注入による熱感、疼痛、悪心、嘔吐（頻度は 5%程度）、ショック症状（頻度は 0.05%程度）が認められることがあります。検査中に気分が悪くなった場合はお申し出ください。適切に対処します。過去にヨード系造影剤を用いたレントゲン検査で副作用が発生した経験のある患者さんは、あらかじめお申し出ください。
- ③感染：検査は無菌操作で行われますが、処置後の感染症を予防するために抗生物質を投与します。

※万が一、発熱、強い腹痛、大量出血を認めた場合には、当院までご連絡ください。

6) 費用

別紙料金表を参照してください。

7) 代替手段

超音波検査、MRI 検査などの画像検査により子宮の形態評価は可能ですが、卵管の通過性評価については本検査が最も直接的な方法となります。

8) 本説明書に関わる同意書の提出について

本説明書に関わる同意書は本治療を実施する毎にその都度、提出が必要です。

東京 ART クリニック

子宮卵管造影検査に関する同意書

私は、医師やスタッフからの説明と文書によって下記の事項について十分理解し、納得した上で、子宮卵管造影検査を受けることに同意します。

また、上記処置に伴い副作用や予期せぬ合併症が生じた場合には、十分な説明を受けた上で、適宜必要な処置を受けることにも同意します。

- 子宮卵管造影検査の目的、対象となる方について。
- 子宮卵管造影検査の具体的方法はどのようなものか。
- 子宮卵管造影検査の適切な実施時期について。
- 子宮卵管造影検査によって考えられるリスクについて（出血、薬剤によるアレルギー、感染など）。
- 子宮卵管造影検査にかかる費用について。（別紙料金表参照）
- 代替手段について。

<注意事項>

- ① この同意書の提出がない場合は、子宮卵管造影検査を行うことはできません。
- ② この同意書は、今回の子宮卵管造影検査用であり、今回の検査後に、再び同じ検査を希望する場合、その都度、同意書の提出が必要です。
- ③ この同意書を提出後でも、検査開始前あるいは開始後であっても、いつでも自由に同意を取り消すことができます。また、医師が継続困難と判断すれば、ただちに治療が中止されます。

説明責任者 東京 ART クリニック 院長 小川 誠司
説明年月日 年 月 日 説明者 _____
同意年月日 年 月 日

住 所： _____

ご本人（診察券番号）： _____ 氏名（自署）： _____

患者様控えは、大切に保管して下さい。